

ジョイサポコラム No.3

女医サポのすすめ

ゆきこどもクリニック 木津 りか

今年には新型コロナ感染、災害、猛暑と試練の日々が続いていますが、皆様お元気でおすごしでしょうか。

コロナ禍で今年の予定や予想は大きく覆されました。世界がこれほどまでに変化するのは、衝撃でした。歴史で学んだペストや結核、天然痘などのように、私たちはまさに歴史にのこる感染症に悩まされ、新たな生活様式を生み出そうともがいているのでしょうか。

私は共済病院退職後、平成30年5月に市内で小児科・アレルギー科としてクリニックを開院しました。開業して2年、不慣れなことばかりで、以前のように電子カルテを眺めながら「どうしょっか。。。」と相談できる同僚はおらず、迷いと不安をかかえて過ごしています。

女医サポのお仕事を昨年からいただき会議等に参加しています。病院に勤務していれば、多くの先生や医療従事者と顔を合わし、話す機会があると思いますが、開業するとほとんど機会はありません。働く場所も、科も年齢も違う女性医師と紙面ではなく、実際にお会いするのはとても刺激があり、貴重な機会でした。2月に初めての会合がありました。今思えば、コロナ禍でぎりぎりのタイミングでの開催でした。藤沢市女性医師会の方々の経

験談は笑いの中に、大変な苦勞をされたことが伝わってきました。

女性医師は子育て時期になると、ただただ時間に追われ、目の前にある仕事と家事をこなすことで精一杯になると思います。実際には日々業務をこなすことで1日が終わります。高齢化の日本では親の介護も避けて通れません。このままでは女性医師が仕事に専念できるのは大学卒業後、数年しかないように思います。

女医サポは、女性医師の交流を通じてお互いの生活の刺激や支えになることを目的に設立されました。こんな風になっているとか、こんな考え方もあるなど、女性医師だから理解しあえることもあります。またさまざまな職場や働き方の情報収集をして今後の将来設計の参考にしていただければと思います。最近ではソーシャルディスタンスが必須となり、テレワークやネット会議が推奨されています。これは女性医師にとっては災いの中から生まれた好機ではないかと思います。限られた時間の中で心身をすり減らすことなく、家族と過ごす時間や学びの時間、憩いの時間を楽しめるよう、ぜひ皆さまのご意見やお知恵を分かち合えればと思っています。ぜひ一度女医サポにご参加いただければと願っています。